

子どもの豊かな育ちに向けたポジティブな行動支援の充実

特別支援教育課

【目指していること】

□行動面に困難のある子どもたちへの支援を充実し、子どもたちの「笑顔」(主体性や社会性の育ち)につなげます。

そのために、望ましい行動に注目し、できることを認めたり、活躍する場を設定したり、授業改善で参加できる場面を増やしたりするなど、ポジティブに関わることで、望ましい行動を増やし、結果として行動面の困難の改善・克服につなげていきます。

1 目的

- ・「行動支援対応リーダー」と各校の担当者が連携して、行動面に困難のある幼児児童生徒への対応力の向上と、幼児児童生徒の行動の改善に向けたチームによる支援力の向上を図る。
- ・外部専門家と連携し、困難事例に対する専門的な視点から助言を得たり、研修会等に参加して行動支援に対する知見を得たりする機会を設け、教員等の専門性の向上を図る。

2 現状と課題

- ・県内特別支援学校に通う幼児児童生徒の行動面への支援として、令和4年度に「行動支援対応リーダー」を2名配置(上田養護学校、伊那養護学校)し、令和5年度に2名増員(長野盲学校、松本養護学校)して、行動問題に対する相談支援の取組を実施。
- ・各校では「行動支援対応リーダー」への相談により、行動支援に対する意識や相談ニーズの高まりが見られ、今後も相談件数の増加や多様な事例への対応が予想される。一方、「行動支援対応リーダー」に頼っている状況が多くあり、行動問題に対しチームで迅速に対応する校内体制づくりが課題。
- ・児童生徒の行動の改善にあたっては、幼児児童生徒の行動、教師の支援、学習環境等を記録し、できるだけ確に分析する必要があり、行動記録や分析に必要な機器等の整備が必要。
- ・「行動支援対応リーダー」が困難事例等の相談に的確に応えられるよう、外部専門家との連携や優れた実践を行う外部機関から最新の知見を得る機会が必要。

3 事業内容

- 行動支援対応リーダー(4名)による各校支援〔コンサルテーション、事例検討会、研修会等〕
⇒各校担当者と連携し、学校解決力を向上
- 校内担当者(自立活動担当教員)を全校に配置
- 教員等の専門性の向上〔研修会、OJT、県外視察〕
⇒事例共有と予防的対応等によるスキルアップ
- 行動支援アドバイザーとの連携
〔困難事案へのコンサルテーション、
研修会講師、学校体制づくりへの助言 等〕
- 行動支援データベース作成〔実践事例、Q&A〕

